

受験体験記

大阪大学（基礎工学部化学応用科学科） Tさん

〇はじめに

こうして自分の受験を振り返って文章に残せることを、とてもうれしく思います。少しでも後輩の皆さんの参考になれば幸いです。

〇志望校の選び方

「やりたいことが分からないから志望校が決まらない」という人も多くいるのではないのでしょうか。私自身がまさにそれで志望校について悩み、模索し続けた結果、最終的に決まったのは高3の9月でした。いつ、どんなきっかけで興味のある分野が見つかるかは分かりません。まだ決まっていなくても焦る必要はないと思いますし、一度決めたとしても、より自分に合った大学が見つかることもあります。だからこそ、つねに視野を広く持つことが大切です。私の場合、当時は工学系の学部に行くなんて全く想像していませんでした。しかし夏休みの受験勉強などを通して、結構ありかも？と思うようになり、今に至ります。ある程度大学が絞れたら、それぞれのホームページや研究室紹介などを見て、一番魅力を感じるところを選ぶといいと思います。雰囲気や立地、入試方式など、様々な観点からみてもここだ！と思える大学が見つかるのが最高です！併願校についてですが、国公立を第一志望にする場合、私大は2～4校程度で十分だと思います。私は2校受け、どちらもきちんと対策に時間をとれたし国公立対策にも支障が出ないくらいだったのでおすすめです。

〇参考書・問題集

どの問題集も賛否両論ありますが、どれを使うにしても結局はどれだけやりこめるかが重要になってくると思うので、そこまでこだわらなくてもいい気がします。自分の使っているものに対する否定的な意見を目にするのがあっても、自信をもって取り組んでほしいです。

〇使っていた問題集とおすすめの勉強法

<英語>

『ターゲット1900』『Next Stage』

すき間時間を活用して3年生になるまでにある程度固めておきました。イディオムは絶対にめんどくさがらないで覚えたほうがいいです。

『ポレポレ英文読解プロセス50』『阪大の英語20カ年』

長文読解・和文英訳は授業と過去問、和訳はポレポレと過去問で演習していました。出てきた単語や表現はその都度チェックすること、先生に添削をお願いすることをすすめます。

<数学>

『青チャート』『4STEP』

復習用に使っていました。青チャートはいろいろな解法や考え方がのっているため辞書のような感覚で使い、4STEPで繰り返し問題を解いてパターンの定着を図りました。わからない問題があったら先生に質問しに行くようにしていました。

『理系数学の良問プラチカ』『阪大の数学20カ年』

応用問題の演習用です。過去問を見て頻出の分野や自分が得点源にできそうな分野から進めるといいです。数学も添削をお願いするといいです。プラチカは3周するといい！と先生に言われましたが、私は始めるのが遅く1.5周くらいしかできなかったのも、夏休みから地道にやるのがいいと思います。

<理科>

化学：『セミナー』『化学重要問題集』『阪大の化学20カ年』教科書&図説！！

物理：『リードα』『物理重要問題集』『阪大の物理20カ年』教科書

セミナーやリードαで基礎固めをしてから、重要問題集を繰り返しやっていました。私は物理が本当に苦手で、克服に努めましたがずっと苦手なままでした。仕方がないので物理は極力失点を抑えるための勉強、化学は物理のできない分を補えるくらいの力を身に付けるための勉強を試みようと試みました。結果的にはうまくいったし化学を好きになるきっかけにも繋がったので、同じような悩みを抱えている人にはおすすめしたいです。化学の勉強のコツは、常に教科書と図説を手元に置いて、少しでも疑問に思うことがあればすぐに調べることです。関連するページも見るとおもしろいです。無機や有機は自分なりに整理してノートにまとめながら問題を解いていくのもおすすめです。物理の勉強法は他の先輩方の体験記を参考にしてください。

<その他の教科>

授業と定期テストを大切にしてください！古文や漢文はすき間時間を活用するといいです。私は共通テストの地理で痛い目にあったので、まだ時間のあるみなさんはいつもより少しでも地理に意識を向けてみると楽になると思います。共通テスト対策は、授業以外では12月中旬あたりから始めました。得意科目で思わぬ失敗をしてしまったなどというときに頼れるのはこれらの科目です。最小限の労力で最大限の力を発揮できるよう、普段の授業を何より大切にしましょう。

○モチベーション維持

まず、一日の目標は達成できそうなレベルで設定することです。張り切って15時間勉強するぞ！などという目標を立てても、達成できそうにないと分かるとその時点でやめたくなるし、仮に達成できても疲れすぎて次の日は全くやる気が起きません。無理のない範囲でコツコツ頑張りましょう。私は8時間を目標にしていました。次に、本当に疲れた時は思い切って一日何もしない日をつくってリセットすることです。それから、ごはんを食べるときやお風呂に入るとき、寝る前などリラックスできるときはとことん休みましょう。私は音楽を聴いたりアニメを見たりしていました。休みすぎには注意しましょう。一番心の支えになったのは友人たちの存在です。不安を共有したりわからない問題を教えあったりしながら一緒に受験を乗り越えたという経験は一生ものになると信じています。

○さいごに

受験は決して楽なものではありませんが、乗り越えた時にはこれまでにない達成感と解放感を味わうことができます。目標に向かってひたすらに勉強するという経験は、何にも代えられないものです。親身になってくださる先生方や同じ目標を持つ仲間たちのいる作新で、ぜひ前向きに受験に取り組んでほしいです。みなさんの目標が実現することを願っています。

最後になりますが、3年間支えてくださり、質問にも丁寧に答えてくださった先生方、また相

談にのってくださった先生方、本当にありがとうございました。

受験体験記 本番の自信が第一！！

東北大学（工学部機械知能航空工） Mくん

（1，2年）

私は1、2年生時授業に遅れない程度や模試、定期試験に向けた勉強をしていました。また、私は英語部に所属していたので、1、2年生時は勉強よりも部活を頑張っていました。

1、2年生時理系は数学、理科、英語を第一にきちんと授業やその後の勉強に悪影響しないような勉強をすれば受験時十分と戦うことができると思うので、これからも頑張ってください。

（数学） 共通テスト（数Ⅰ・A）81%（数Ⅱ・B・C）91% 計算練習：4step（特に数Ⅲ）理系数学の良問プラチカ 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C 理系数学の良問プラチカ 数学Ⅲ・C 二次試験68%

共通テスト：共通テストの勉強は共通テスト模擬問題を何度も繰り返しやり、苦手やできないような問題をなくすことに取り組みました。また共通テストは時間が少ないため、共通テストの模擬問題でどのような順番で解き、一つの大問にどのくらいの時間を割くかの戦略を立てました。

二次試験：理系数学の良問プラチカ 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cによって基礎で抜けていた分野を補充しました。東北大学は他の難関大学と比べて数学がとても単純で基礎力があれば十分戦えるため、あまり難しい問題は取り組まず、過去問やプラチカによって、安定して点数を取れるようにしました。

（物理） 共通テスト：85点 二次試験：72% 物理のエッセンス→良問の風→名門の森

物理は他の教科と比べて、多く勉強し成果が出やすい教科だと思っています。物理は最初何をどのように解けばいいのかわからないこともあります。多様な問題を解いていくと解き方には一定のパターンというのがあることが分かります。例えば、物体が移動後の速度を求めるとき→力学的エネルギー保存物体同士が衝突や分裂したとき→運動量 また、きちんと問題にある図を利用し、物体に加えられている重力、垂直抗力、摩擦力などの力を書きこみ、頭の中だけでなく、目でも認識し忘れていないかを確認することはとても大切です。そのパターンやコツがわかると物理の解法はすぐに思いつき、ほとんどの国公立や私立の問題、共通テストの問題は解けるようになるので、物理は山を超えるとほんとにできるようになり、入試で最強の武器になるので、頑張ってください。

（化学） 共通テスト：76点 二次試験：60% 大学doシリーズ、化学のセミナー→化学の重問&「東北大の化学 15ヵ年」

理論化学：理論化学は分野が多く、自分は基礎の部分が多く抜けていたため、共通テスト直前では力を入れて間違った問題は何度も解きなおしました。その後基礎の部分が着いてから点数が安定したので、二次試験の勉強もやりやすくなったので、理論化学はきちんと抜け目なく基礎を身に付けることが大切だと思います。

無機化学：正直私は暗記することが苦手なので、無機化合物は問題を何度も解きなおすことや語呂合わせにより暗記することが大切だと思います。

有機化学：東北大学の入試は有機化学の構造決定が難しいため、過去問や問題集の構造決定を多くやりました。構造決定は化学の教科書にある有機化合物の反応を細かく覚えることと整理しながら解くことが大切だと思います。

構造決定の問題でのそれぞれの実験はすべてヒントになっているため、問題用紙の空きスペースで自分なりに各実験がどのような反応を示し、反応後有機化合物はどのように変化をするのかを分かりやすくするのが大切です。このような整理して解き、反応を覚えることができるようになれば、有機化学は解けるようになると思います。

（最後に）

受験は自分の志望校に行けるのか共通テストや二次試験の直前は特に不安になりますが、基礎をきちんとやり、過去問を解けば十分戦えます。また、本番や試験前日自信などにやる気を落としてしまうと、それが試験の結果に影響してしまうので、本番では自分以外のことは考えず、自分がこの世で最も頭がよいというレベルの自信を持ち試験を受けるのが大切です、それで逆転する可能性は十分あります！！なので、これからは試験の日だけは自信満々に解いてください！！ここまで読んでいただきありがとうございました。これからも勉強だけでなく、部活なども頑張ってください！！応援しています！！

総合型試験という選択

東北大学（工学部電気情報物理工学科）　Oくん

〈はじめに〉

まず、合格体験記を書く機会をいただけたことをうれしく思います。私は総合型（AO）入試という少し特殊な方法で受験したため、すべての人に当てはまるわけではありませんが、参考になれば幸いです。

〈1・2年次〉

1・2年次は、部活動や合唱コンクール、文化祭、球技大会などの学校行事に特に力を入れていました。家ではあまり勉強できず、塾にも通っていなかったため、放課後は学校に残って20時頃まで勉強していました。とはいえ、常に集中していたわけではなく、友達と教え合ったり、お菓子を食べながら雑談したりする時間も多かったです。テスト期間や模試の前日はしっかり集中して取り組んでいました。私は英語部に所属し、日々英語ディベートの練習をしており、その中で英語を実践的に使うことで英語力を身に着けることができました。休日は部活が入る日もありましたが、テスト期間以外はあまり勉強していなかったと思います。志望大学が定まっていなかったため、選択肢を狭めないよう幅広く勉強していました。

〈3年次〉

3年生になると受験を意識し始め、先生の勧めもあって「東北大学に行きたい」という気持ち

が芽生えました。模試が増え、周囲の雰囲気も変わっていく中で、放課後の勉強にも集中して取り組むようになり、休日は図書館で勉強するようになりました。7月の合唱コンクールが終わる頃には、東北大学を第一志望として本格的に勉強しようという意識が強まりました。7月末のオープンキャンパスに参加したことで総合型入試を意識し始め、8月中に先生や家族と相談して受験を決めました。

〈総合型入試〉

総合型入試は大学によって方法が異なりますが、学力試験だけでなく、小論文・面接・書類などを通して多面的に評価される入試方式です。私は英語部での活動実績があったため、それを活かしたいという思いもありました。東北大学の総合型入試は学力試験の比重が大きく、問題も一般入試よりやや易しい内容で、学科によっては小論文が課されます。一般入試を想定している受験生でも受けやすい形式です。また、もし不合格でも2回目の総合型入試や一般入試を受けられるため、最大3回のチャンスがあると考え、受験を決めました。もちろん、9月の大事な時期に書類作成や手続きで時間を取られることや、もし落ちてしまったら精神的なダメージも大きいというデメリットもあります。しかし、志願理由書を書く過程で自分のことを見つめなおし、将来について深く考えることができます。そのため、「この大学でこの研究をしたい」「この教授の講義を受けたい」などの大学へのモチベーションが高まり、受験に向けてより意欲をもって勉強することができ、また11月の受験というタイムリミットができたことで勉強の効率も上がりました。その結果、最後の校内模試では過去最高の成績を取ることができました。面接では担任の先生をはじめとして、多くの先生方に協力していただき、無事合格することができました。

〈使用した参考書〉

・数学：4STEP（定期テストの対策や復習）、一対一対応の数学（復習・様々な形式に慣れるため）、スタンダード数学ⅠAⅡBC、青チャート、プラチカⅢC（苦手分野や必要な部分のみ）※高2の頃から毎週、数学の補講で復習していました
・物理：リードα、重要問題集
・化学：セミナー、重要問題集（特に物理化学は重問を繰り返し解きました）

〈勉強法〉

私は一日に複数科目をやるのが苦手だったため、「今日は化学、明日は数学、あさっては物理」というように科目ごとに日を分けていました。そのうえで、「今日は重問の有機化学を全部やる」など、具体的な内容を決めて取り組んでいました。

〈アドバイス〉

1・2年次は後悔しないよう、部活や学校行事に全力で取り組んで楽しんでください。ただし、基礎を取りこぼすと後で苦労するので、定期テストや模試はしっかり取れるように工夫して勉強することをおすすめします。総合型入試を少しでも考えているなら、英検や校外活動、興味のあることの追求など、早めに準備しておくといいです（私は夏休みに決めたため、かなり大変でした）。参考書や勉強法は本当に人それぞれなので、いろいろな人の方法を見たり、先生に相談したりするのが良いと思います。応援しています！！

自分自身のトリセツを作ろう

信州大学（医学部） Tくん

（はじめに）

私自身、高校生の時はバスケ部や生徒会に所属して勉強は高3の夏以降にやり始め、案の定1浪したため一体どこの誰に私の受験体験を参考にさせていただけるのか見当もつかないが、そのまま参考にするなり反面教師にするなりして有効活用していただきたいです。

突然ではあるが、皆さんは受験において何が一番大切だと考えるだろうか。勉強の質を高くして、たくさん量をこなすことだろうか。はたまた、とにかくいかなる時間も勉強に充てることだろうか。もちろんこのようなことが最も大切だと考える人はいるだろうし、それを否定するつもりはさらさらない。ただ、私は受験において最も大切なことは、**いかに上手に手を抜くか**だと考える。このことは、言い方を変えると、**いかに効率よく勉強するか**とも言える。これから受験生になる方々にこのようなことを言うのはあまり良くないのかもしれないが、私の経験上では、全ての文言をノートに写すなどの勉強をして、効率を無視して勉強をする人（以後、前者とする）よりも、メリハリをつけて受験期でも遊ぶときは遊び、勉強をするときは勉強をする人（以後、後者とする）の方が志望校の合格率は高いように感じる。これは、現役生浪人生問わず言えることだと思う。では、なぜこのようなことが起こってしまうのだろうか。次の段落ではその原因について考察することにする。

（なぜか）

実際、前者には常に勉強している事実には満足してしまっている人や、ただ勉強をこなすことが目的になってしまっている人が少なからず存在している。そのため、受験に合格するために勉強をするのではなく、長い時間勉強をすること自体が目標であると錯覚してしまっているのではないだろうか。

（ではどうすれば良いのか）

私は、お昼の時間は友達と話したり、バスケの動画を観たりするなどして休息をとっていた。また、7時半から22時ほどまで予備校や図書館で勉強し、帰宅後は自由時間としてYouTubeを見たりしていた。浪人中も、友人とご飯に行ったり花火を見に行ったりして充実した日々を送っていた。このように自分の学習状況や、成績、立ち位置を理解した上で休息を挟むことは、勉強に対するマンネリ化を防ぐことができ、モチベーションの維持に効果的だと思う。ただ、勘違いしてほしくないことは、**大前提ある程度勉強はする必要がある**ということである。自分の性格なども理解した上で、自分にとって最適な勉強法、勉強習慣を身につけてほしい。すなわち、**自分自身のトリセツを作ってほしい**。ここからは、医学部に合格するために気をつけてほしいことなどを書く。

（医学部に受かるためには）

まず、どんな私立医学部にしても国立医学部にしても、基礎学力はつけてほしい。どの学校を受けるにしても、多くの参考書に載っているような典型問題は難なく解けるようにしていただきたい。

（私立医学部専願の場合）

まず、自分の学力や、行きたい学校からある程度志望校を絞る。次に、受験方式、どの科目が必要なのか、各配点、各教科の問題の難易度、小論文の有無、面接が MMI かどうかなどを調べる。学校によっては年内に推薦入試がある。一般受験よりも比較的推薦入試の方が合格しやすいことが多いので、本当に入りたい学校の場合や絶対に浪人したくない場合などは受験を強くお勧めする。また、学校によっては理科 2 科目の配点が高い場合がある。数英よりも理科の方が学力を伸ばしやすいので、その場合は理科科目をたくさんやることで合格可能性を上げられるのではないだろうか。

（国立医学部の場合）

私立医専願の人と同じように志望校を絞り、受験科目、2 次と共テの比率などを調べる。最近では国立医学部も地域枠のくくりで推薦の募集枠が多くなっているので、自分の人生キャリアを考えた上での検討をお勧めする。地方国立医学部の場合、一般の共通テストボーダーよりも 2～3 % 低いことが多い。推薦のボーダーは一般には公開されておらず、河合塾が独自に集めたものは河合塾内でしか出回っていないので注意である。また、私立医を併願する方は、一般受験よりも共テ利用の方が合格しやすいことも多々あるので検討をお勧めする。国立医学部の場合は共テの比率が意味わからないほど高いので、共テでしか使わない科目も早くから取り組むべきである。面接はそこまで恐れる必要はないと思うが、河合塾が面接の実施状況をまとめているので各自確認していただきたい。

（最後に）

ずっと医学部を目指してきたため、医学部を目指す方向け中心となってしまう、他学部の方への具体的なアドバイスを残すことができなく申し訳なく思います。ただ、各々が目指す進路に進めることを願っています。頑張ってください！

受験体験記

東京外国語大学（国際社会学部） S さん

はじめに

受験体験記を書けることを大変嬉しく思います。在校生の皆さんに少しでも参考になれば幸いです。私は 2 年生の夏から 10 ヶ月ほど留学し、帰国後 2 年生の 6 月から復学したため少し特殊な事例かもしれませんが、ここでは私の受験にあたっての経験を書かせていただきます。

（1、2 年生）

1、2 年生の頃は日々の授業の予習・復習や定期テストに力を入れていました。定期テストでは受験では利用しない科目もあると思いますが、1、2 年生のうちに勉強法や習慣を確立することに役立ちます。特に国語・数学・英語の主要 3 教科は文法や公式などの基礎をしっかりと身につけておくことで受験勉強を本格的に開始したときに早く演習に取り組むことができます。また、1、2 年生のうちに英検などの資格を計画的にとっておくと、加点がある大学も多いので受験を

有利に進めることができます。私自身は留学から帰ってきた際に古典文法や数学の公式をほとんど忘れてしまっていたため、それまでの努力が無駄になってしまったように感じましたが、比較的速く学力を戻すことができたのは一度基礎を身に付けていたからだと思います。受験に直結はしなくても必ずどこかで役に立つため、日々継続して取り組むことが大切です。

（3年生）

・夏休みまで

私は数学と世界史が苦手だったため夏休み終了までに基礎を徹底して覚え、夏休み明け後の校内模試での目標を定めて学習しました。特に受験科目が多い人は得意教科を伸ばすことよりも苦手分野を減らすことに重きを置くべきだと思います。志望校が決まっている人は赤本に一度目を通しておくといいです。

・夏休み後～冬休み前

模試がたくさんあるため、その結果を参考にして自分の弱点を分析し、志望校も徐々に決めていきました。10月位からは過去問の傾向を見て二次試験の対策を少しずつ始めました。私は二次試験で世界史の論述と英語の要約、作文があったため慣れるために似た問題を探して解いていました。過去問は解ける回数が限られているため直前期にとっておくべきだと思います。

冬になり学校で共通テスト対策が多くなってきた頃から理科基礎や情報も対策を始めました。おろそかにしがちな教科かもしれませんが、比較的安定して点数を取りやすい教科なのでここで点数を落とさないことが重要だと思います。大学によって教科ごとの比重や配点が異なるためそれぞれの教科の目標点を定め、優先順位を決めて学習しましょう。

・冬休み～共通テスト

冬休みは共通テストの演習をひたすら繰り返しました。解くたびに明確に点数がわかるため一喜一憂し、私にとっては一番精神的に辛い時期でした。移動時間も惜しく感じるかもしれませんが、学校に行き先生や友達と会うことで息抜きをすることも必要です。また私立の出願などもはじまってくるため、受験校を決める最終段階に差し掛かってきます。

・共通テスト後～二次試験

私は共通テストの結果をもとに私立の一般受験校と国公立の学部学科を最終決定しました。共通テスト後は私立の一般受験まで2、3週間しかないため私立の過去問をすぐに解き始めました。それぞれ過去3年分ほど解き、問題の傾向や時間配分を学ぶことが特に大切です。

2月からは自由登校期間に入りますが、私は二次試験で使う英語のスピーキング練習と要約、作文問題、世界史の論述の添削を先生にお願いし、学校で勉強していました。自分では気が付けない間違いやより良い書き方があるため、論述問題や英作文がある人は必ず教科担任の先生に添削をお願いすべきです。

2月は一般受験が多くあり精神的にも体力的にも疲れますが、体調を崩す事がないように気をつけましょう。当日試験を受けられることが一番大切です。

（まとめ）

受験期には成績や進路など悩み大きなストレスを抱えることが多いと思いますが、この時期に自分としっかり向き合うことは非常に大切です。大学に入ると将来について考える機会や自分で選択をする機会はさらに増えます。受験期に培った経験は今後大きな支えになるはずです。在校

生の皆さんが納得のいく進路選択ができることを心から願っています。

そして最後に、4年間支えてくださった方々、熱心に指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。

受験体験記

横浜国立大学（理工学部） Wくん

はじめに

受験体験記を書けることを大変うれしく思います。正直、皆さんのお手本となるような高校3年間をおくった自信がないのですが、少しでも参考になれば幸いです。私は各科目の勉強の仕方を、私の経験と交えて書いていきたいと思います。どちらかといえば理系の方向けになってしまっていますがご了承下さい。

○国語

国語は1，2年生のうちから、少しずつ勉強しておくことをおすすめします。理系で二次試験に国語がない人であれば、学校で出された課題をしっかりこなしていれば十分だと思います。私は1，2年生のころ国語の課題をおろそかにしてしまいましたが、3年生になってそのことを後悔しました。3年生になると国語に割ける時間は少なくなります。そういう意味でも、1，2年生のうちから課題だけでもいいので国語は勉強するべきだと思います。3年生では、国語は共通テストの勉強がメインになります。現代文は得点の波がありますが、古文と漢文は勉強しただけ点数が取れるのでしっかりと勉強することをおすすめします。

○数学

数学は最も重要な教科です。私自身、勉強時間のほとんどは数学に費やしていた気がします。数学の勉強の仕方についてですが、まずは授業を大切にしてください。授業である程度理解して、問題を解くという流れが、一番効率がいいと思います。次に授業以外での学習ですが、私は網羅系の参考書（チャートやフォーカスゴールドなど）をメインに使っていました。具体的にどのようなことをやっていたかという、解法パターンを覚えることです。数学で初見の問題を見たときに大切なことは、問題を分解し、自分が知るパターンに落とし込むことだと思います。そのためにも解法を暗記するだけではなく、「なぜその解法を使うのかという」思考プロセスを理解しながら取り組むと、初見の問題でも対応しやすいと思います。ある程度解法を理解した後は、難しめの入試問題を解いていました。覚えたパターンが実際に使えるかを確認していました。覚えたつもりで使えないことは多くあるので、実践的な問題を解くことは必要です。

○英語

私は英語が苦手だったので話せることは少ないですが、単語帳を一冊は終わらせたほうがいいと思います。私自身単語帳を終わらせることができず後になってすごく後悔したので、単語帳は一年生の時からこつこつやっておくことをおすすめします。学校の小テストなどをペースメーカーにするのもいいと思います。

○物理

物理はリードアルファと物理重要問題集を使っていました。物理は自分が好きな参考書を使えばいいと思います。物理はできるようになるまで同じ参考書を何周もしていました。

○化学

化学はセミナーと化学重要参考問題集を使っていました。物理同様、自分が好きな参考書を使えばいいと思います。化学も同じ参考書を何周もしていました。物理と化学に共通して言えることとして、何度やっても忘れてしまいます。私も忘れるたびに参考書や教科書を見返していました。この繰り返しによって記憶が定着していきます。

○地理

地理は自分で時間をとって勉強することはないと思うので、授業を集中して聞くことが大切です。しかし、テスト勉強とテスト直しだけは時間をとって勉強するとよいと思います。

まとめ

ここまでは各教科の勉強の仕方を長々と話しましたが、受験において最も大切であることは仲間たちと切磋琢磨し合うことだと思います。一人では辛いことも仲間となら乗り越えられます。綺麗ごとのように聞こえるかもしれませんが、メンタル的に苦しいときや、緊張したときに最も強い人は仲間がいる人たちです。ぜひ皆さんにも仲間と共に受験期を乗り越えてほしいと思います。皆さんの更なる飛躍を祈っています。

そして最後にはなりましたが、三年間支えてくださった先生方、ありがとうございました。

環境に感謝

東京農工大学（工学部生命工学科） Tくん

この度は受験体験記の貴重な1ページを私のために与えていただいたことに対して誠に感謝しております。少しでも受験を迎える後輩たちの役に立てれば幸いです。私は主に受験する上での心構えや注意点を記します。アドバイスできるほど優れていないので、過去の自分に言っていると思ってください。

【はじめに】

これから皆さんはたくさんの合格体験記等を見られると思いますが、自身の能力や努力を誇示したものがあるので惑わされないようにしてください。あくまで参考程度にとどめるべきです。勉強法は私より勉強が出来る人が詳しく書いてくださると思うので、最後に簡単に記します。

【全学年へ】

- ・睡眠は最低6時間とってください。睡眠時間を削って勉強するのは記憶に定着しないので意味が無いと思います。
- ・勉強したくなかったら勉強しなくて良いです。誰かにお願いされて勉強している訳ではありません。誰のための勉強なのか考えましょう。（私は共テ1週間前でも勉強したくない日はあまり勉強していませんでした。精神を健全に保つためです。）

・受験生には推奨しませんが、ほどほどにゲームをしよう。特に緊張するゲーム。私は受験本番でも緊張しましたが、平常心を保ち自己ベストをたたき出せました。ゲームのおかげに違いないです。

・一緒に勉強する友達を見つけよう。周囲につられて勉強できます。私は友人のおかげで勉強を続けられました。

・睡眠不足自慢、全然勉強してないわ自慢、努力を否定したりバカにしたりする人はほっときましょう。

・親に感謝しよう。特に受験期、親にムカつくと思います。勉強できる環境や受験できる環境はほとんどが親のおかげだと思います。

・親の経済力は確認しておこう。私立大進学、浪人、滑り止め校の入学金支払いができるかどうか経済力によって左右されると思います。受験本番直前に言われるとプレッシャーがかかります。私は上記3つとも経済的な理由で不可能でした。挑戦できる者は失敗しても大丈夫な環境に恵まれているということを自覚し、感謝し受験に臨みましょう。

・夢とかやりたいことが無くても、とりあえず志望校を早めに決めておこう。10代で夢は中々見つからない。夢とはかけ離れた仕事をすることもあると教授が言っていました。受験する大学は最後まで悩みます。早めに志望校を決めておくことで過去問から逆算し勉強の戦略を立てられます。

【1年生へ】

第1志望校に不合格で作新学院に来たという方がいると思います。私も定員割れの県立高校に、塾に通わせてもらったのにも関わらず不合格で、英進クラスに入学させていただきました。いつまでもそれを引きずって勉強しないのは勿体ないです。当時担任であった齋藤正範先生に勇気づけられ、ゲーム依存症かつやる気のなかった私にも勉強しようとする意志が生まれました。感謝しきれません。1年生の頃は8月くらいから平日のみ3時間勉強していました（それまでは新生活に慣れるのと、ゲームの時間を減らすので手一杯でした）。休日は気が向いたら勉強していました。英進クラスの人達はトップ英進に編入しましょう。勉強に集中できる環境になります。

【2年生へ】

英進クラスの人達はトップ英進に編入できるよう頑張りましょう。勉強を本気でやり過ぎないようにしよう。私は2年の冬くらいから受験生に混じり勉強していました。3年の冬には勉強量が減っていました。受験はマラソンです。

【3年生へ】

夏休みに本気で勉強しすぎないようにしよう。ロボットのように勉強していました。受験直前には勉強するエネルギーがほぼ切れていました。沢山寝てください。勉強したくなかったら寝ましょう。勉強中に眠気がきたら仮眠をとしましょう。

【先生方へ】

大変ご迷惑をおかけしました。ご無礼を働き申し訳ございませんでした。

【私の勉強法】

数学と英語は本質的な勉強をしていたのではないかと自負しています。使った参考書、共テの点数も載せておきます。参考書は基本1周です。本気で取り組めば1周で終わります。単語帳と

理科はたくさんやりました。現代文： 気合い。読解力とは中々伸びないと思い自主的な勉強はしていません。(81 点) 古文：『岡本梨奈の 1 冊読むだけで古典文法の基本&覚え方が面白いほど身につく本』(30 点) 漢文：『漢文早覚え速答法』(28 点) 地理：『集中講義』 3 年の秋時点で 47 都道府県のうち 20 個くらいしか分かりませんでした。なんとかなります。(63 点) 情報： 気合い。(63 点) 数学：『青チャート』初見の問題をわからない場合は答えを見ずに 25 分以上粘って紙に書いて解きました。例題、練習問題だけでなくエクササイズの問題にも取り組みました。(EX は数列、ベクトル、複素数、数列の極限、微分積分のみ) おすすめはしません、挫折するからです。数学は考えることが醍醐味だと思います。1 つの問題に 10 時間以上格闘して解けた時の達成感は忘れられません。(数 1A 68 数 2BC 96) 英語：『速読英熟語』『速読英単語必修編』『速読英単語上級編』音読と単語が命だと思っています。まずは英単語を詰め込み、英語を英語のまま理解するために音声を聞きながら音読をしましょう。リスニングは勉強しても中々伸びないと思います。文法は『英文法ポラリス 1』で最低限勉強しました。SVOC 等は試験本番で振る時間がないので勉強していません。英作文は『英作文基本 300 選』で勉強しました。(リスニング 62 点リーディング 94 点) 理科：『リード α 物理』『良問の風』『重要問題集物理』『セミナー化学』『重要問題集化学』『教科書』 物理は重要問題集が解けたので基礎ができると勘違いし、思うように点数が伸びませんでした。公式の成り立ちを知り始めてから苦手を克服しました。化学は教科書が命です。(物理 66 化学 76) 合計 727 点。私は共通テストが苦手だったので 3 年生の 10 月から過去問演習と予想問題演習をしていました。最低でも 10 年分やりました。2 次試験は 6 年分くらいです。塾等は通っていませんでした。

【最後に】

夢は現実に抗ってこそ見つかるものだと思います。将来について悩むと思いますが、後悔のない選択をしてください。勉強をすることが偉いことだと勘違いすることなく、環境に感謝し頑張ってください。応援しています。

受験体験記

千葉大学（文学部人文学科歴史学コース） O さん

（はじめに）

受験体験記を書けることを大変嬉しく思います。これを読んでいる皆さんの参考になれば幸いです。

（自己紹介）

3 年間英進選抜クラスで文系でした。部活は社会研究部に所属し、週 1 回活動していました。

（志望校について）

私は学校推薦型選抜で合格しました。
中学 2 年生の時に考古学に興味を持ち、中学 3 年生頃から千葉大学に憧れていました。オープンキャンパスは募集人数が少なく、行くことができませんでしたが、文化祭や長期休みにキャンパスに足を運び、雰囲気を感じていました。また、千葉大学のサイトや毎年出版されているパンフレットによく目を通していました。

(1年生)

定期テストに向けて勉強することがほとんどで、クラス内や英進部全体の上位をめざして時間をかけていました。1年生から10時間勉強できる習慣を身に付けておくと学年が上がっても勉強時間をのばす必要がありませんので、後々楽になります。学校でも言われているかもしれませんが、国語・数学・英語を学校から配られた教材で勉強するには十分だと思います。

休みの日には東京国立博物館や国立歴史民俗博物館などに行っていました。

(合格した検定：英検準2級)

(2年生)

定期テストを中心に勉強していましたが、模試では理科や社会科目も入り、何から手をつけていいのかよくわからなくなっていました。計画を立てて、それをしっかりとこなしていける能力が重要になります。

冬に担任の先生から学校推薦型選抜を受けてみては良いのではと言われ、推薦も考えるようになりました。

(合格した検定：英検2級、数学検定準2級、世界遺産検定3級)

(3年生)

夏休みまでにどの教科も基礎の部分を完璧にしていました。推薦では最近読んだ本について聞かれることが多いと聞いていたので、夏休み中に読書感想文の本1冊と私が興味を持っていた縄文時代についての本1冊を読みました。2学期に入ると教科書が終わり、問題演習が始まります。一般選抜の勉強もしながら推薦の準備もしなくてはならなかったもので、忙しかったです。

(合格した検定：数学検定2級、世界遺産検定2級)

(学校推薦型選抜について)

私が受けた千葉大学文学部人文学科歴史学コースの学校推薦型選抜は調査書の学習成績概評がA段階にある者と出願資格が定められているので、1年生からの積み重ねが大事です。

私は推薦の1か月前からは授業以外の時間は小論文と面接の練習しかしませんでした。共通テストや一般選抜における学力は周りと大きく差がつくのではと心配していましたが、受けるからには絶対合格したいという思いでやりました。

当時、小論文の過去問はネットに公開されておらず、大学の事務局へ見に行くしかありませんでした。しかし、母が仕事の休みの日に大学へ行き、メモを取ってきてくれました。(過去問の写真を撮るのは禁止されていたので、問題文や出典先を手書きで全部書いていました。)さらに書店などで購入できる小論文用のテキスト2冊と過去問を実際に解き、学校の先生や塾の先生に添削していただきました。小論文は和訳の問題が3問でるので『ターゲット1900』はずっと繰り返していました。また、歴史をテーマにした英文や単語にも積極的に取り組んでいました。面接は担任の先生と週1～3回ほど練習し、目を見て話すことや注意すべき点について細かく指導していただきました。同じ学部学科コースを受けた先輩の体験記(小論文の内容や面接で聞かれたことをまとめたもの)は必ず読んでおきましょう。大学生になった今でも大変役に立ったなと感じます。

土曜日は小論文、日曜日は面接の試験だったので金曜日は学校を出席扱いにいただき、金曜日と土曜日の夜は大学の近くのホテルに宿泊しました。ホテルでは『ターゲット1900』や今まで書いてきた小論文の添削などを見直して過ごしました。家とは違う環境になると思い、いつも使っている枕カバーやクッションを持っていきました。少し荷物になりますが、ぐっすり眠れるのでおすすめです。

本番では小論文は時間内に終わり、できることはやったかなと思いました。過去問を解いていたので、問われている内容や時間にも焦りませんでした。面接では雰囲気暗かったので、それに惑わされないようにしていました。

高校(部活や頑張ったこと)、自分(性格など)については全く聞かれず、事前に提出した志願理由書から掘り下げて聞かれました。一番焦ったのは読んだ本を4冊聞かれたことです。4冊目は思い浮かばなかったので、論文の内容とそれを読んだ自分の考えを答えました。補足ですが面接は自分の順番が回ってくるまで控室にいました。そのときから電子機器の使用はできなかった所以面接の資料はスマホやタブレットではなく、紙にまとめておくのが一番安心です。

結果がわかるのは1か月後だったので、推薦が終わったら一気に共通テストや一般選抜に向け

での勉強に切り替えました。

1 か月後の合格発表のときに自分の受験番号があったときは喜びと達成感に満ち溢れていました。

（最後に）

ここまで読んでくださった皆さん、ありがとうございます。第1 志望校合格を心からお祈り申し上げます。

自分に合った受験法で志望校合格を掴むために

埼玉大学（経済学部経済学科） Yさん

この度は貴重な1 ページを私にくださったことに対して誠に感謝しております。私が大学受験を通して感じたことを通し、少しでも受験を迎える後輩たちの役に立てれば幸いです。

まず私の受験体験についてです。私は応援部に所属しており、3 年の夏まで部活をやっていました。そのため周りと比べて本格的に受験に向き合うまでの時間が長かったように思います。そんな私も夏に部活を引退し、出遅れて受験の準備に本格的に入ったものの、9 月の終わり頃、模試などの回数が増え、思うように伸びない結果を見たり周りと比べて自分は努力が足りてないと悲観的になったりする中、このまま皆と同じルートを辿っても圧倒的に時間が足りず、到底戦えないと思うようになり不安が大きくなりました。

そこで、今まで頑張ってきた部活や小さい頃から続けた習い事など、継続力や挑戦する力といった学力以外の自分の武器を見てください。入試方式はないかと自分で一生懸命調べた結果、総合型選抜に辿り着きました。総合型選抜とは学力試験に加え、大学の求める人物像にあった人を面接や小論文で見極めていただくという入試です。皆が頑張ってきた勉強に加え、部活や習い事などを継続してきた私にはこの入試を通して大学の求める人物像と私の考えや経験の合致を見てもえる入試はとても合っていると思いました。とはいえ調べるのが遅く10 月ごろだったため失敗したら時間が無駄になってしまうなどの心配はありましたが、後悔をしなくなったためすぐに受験を決めました。

途中、志望理由書や小論文、面接などを塾や学校の先生に添削していただき、一次を通過した後はひたすらに知識の漏れを潰す作業を続け、独学だった政治経済はひたすらに知識を叩き込み続けました。結果として合格をいただくことができ、勉強はもちろん、今まで正解だったのか分からなかった部活を続けるという選択や習い事を通してつけた力が間違いじゃなかったんだと思え、自分に自信を持てました。

次にこれらを通し総合型選抜受験を受けようと思っている方に向けてです。余計なお世話かと思いますが聞いてください。まず、志望理由書や面接、小論文は学校や塾など何名かの先生に見てもらってください。人にはそれぞれの視点や考え方があるため、1 人ではなく複数人に見てもらいブラッシュアップしてもらうことでより良いものが作られます。

実際私は複数の先生に面接や文書を見もらうことでそれぞれにない視点からもらった意見をもとに完璧なものを作れたと思います。次に、当日試験会場に行ったら誰よりもできるとい

う自信を持ってください。とはいえ自信がなくなるのは当たり前なので、自信があるフリでいいです。当日試験会場には自分を存分にアピールしにきた学生がたくさんおり、一般入試とはかなり違った雰囲気があります。自信があるフリは心理・生理的に本物の自信を醸成し、周囲からの信頼と評価を高める強力なツールです。堂々とした姿勢や振る舞いを演じることで、脳が「自信がある」と錯覚し、実際にストレスが減り、パフォーマンスが格段に向上するそうです。とにかく本番まで来たら最後。自信を持ちましょう。

そして勉強についてです。国立の総合型受験の一次突破後の共通テストまでは意外と時間がありません。一次試験を突破した後はとにかく知識を詰め込み、漏れを潰す作業をしましょう。二次落ち是一次落ちで切り替えた人よりも多くの時間を総合型に費やすため、使った労力と失敗したときの絶望感が格段に上がると思います。後悔しないよう、とにかく全力で勝負しに行きましょう。以上が、私が総合型受験を通して得た全てです。

〈最後に〉

私は自分の持つ力を存分に使い、戦略的に受験をしました。きっと1、2年生の中には勉強をたくさんやらなきゃいけないとわかっていても部活や習い事などを全力で頑張り、いっぱいいっぱいで勉強に上手く手が回せていない人も少なからずいると思います。そんな時に周り比べて自分が甘いんだとか、サボっているからできないんだとか、自分で自分に思ったり、自分を取り巻く環境からの圧を感じたりすることがあると思います。ですが、今回の総合型選抜や、様々な大学の独自の入試方式で、自分が頑張っていることと大学の合致を見るといった自分の頑張りを認めてもらえる入試はたくさんあると思います。志望校に合格したいという思いがあれば、自分で一生懸命たくさん調べて自分の頑張りが無駄にならない入試で戦うというのは一つの立派な戦略です。甘えでもなんでもありません。準備することはたくさんありますが受験を通し、結果の良し悪しに関わらず、受験までの過程を通し、自分の頑張りを証明することができ、自信につながると思います。

そして何よりも、勉強、部活、習い事など様々なことを頑張る全てのみなさんを心から応援しています。受験、頑張ってください。見ていただきありがとうございました。

逆転合格までの道のり

新潟大学（経済学部総合経済学科） Kさん

初めに、この度は受験体験記に掲載していただきありがとうございます。
少しでも後輩の皆さん（特に文系国公立志望の受験生）のお役に立てたら嬉しいです。

（1・2年生へ）

先生方もよく仰っていることかもしれませんが、改めて1・2年生のうちに、国語・数学・英語の基本的な学力を身につけておくことが大切だと感じました。授業を大切にし、定期テスト前や長期休みの期間を利用して、苦手な分野を復習しておくことが重要だと思います。

私は1年生の2学期頃から数学に苦手意識を感じ始めました。文系に進むことを決めていたこ

ともあり、普段の学習では国語と英語に重きを置いてきました。しかし、最終的に国立大学の二次試験まで数学を使うという選択をしたため、もう少し2年生までに数学にも取り組んでおけばよかったと感じています。共通テストもあるので、文系・理系を問わず、この3教科は満遍なく勉強しておいて損はないと思います。

（3年生へ）

3年生になると、これまでの倍以上模試を受ける機会が増えます。そして、その模試には新たに浪人生も加わりこれまで以上に厳しい競争になります。

3年生になって勉強量を増やしているはずなのに、成績が思うように伸びないという経験をする人も多いと思います。正直に言って、私たち現役生よりも約1年長く受験勉強に取り組んでいる浪人生の方が、成績が良いのは当然のことだと思います。

しかしそれはあくまでスタートラインの違いであり、目指すゴールは同じです。彼らに追いつき、そして追い越すつもりで努力しなければ、合格を掴み取ることはできません。

模試の結果は受験校を考えるうえで大切な資料ではありますが、あくまで参考の一つです。結果に一喜一憂する時間があるなら、その時間を次の勉強に充てることが大切だと思います。高いモチベーションを持つことは受験の必勝法の一つです。

また、3年生になると志望校の過去問、いわゆる赤本に取り組む人も増えてくると思います。私も夏休み頃に購入し、解いてみようとしたのですが基礎が十分に身につけていない状態では問題の意図や解き方を理解することができず、ただ解答を読んで理解したつもりになってしまうことが多くありました。

過去問は自分の実力を知るうえでとても大切な教材ですが、基礎が不十分な状態で取り組むと、効率の良い学習に繋がりません。

国公立志望ならば、共通テストがうまくいかなければ元も子もないので、夏休みは赤本にとらわれず共通テスト対策に力を入れて良いと思います。

まずは教科書や問題集などで基礎をしっかりと固め、9～10月頃に一度解いて志望校の傾向を掴んだら、残りは共通テスト後の自宅研修期間に二次試験対策の総まとめをするのがおすすめです。

（受験を終えて）

受験は思うようにいかないことも多く、不安になることもあると思います。実際、私は最後の模試まで第1志望校はC判定で、私立大学からも一つも合格をいただけないまま国立大学の二次試験を迎えました。

正直、合格の文字を目にするまでは、「年内に推薦入試を受けておけばよかった。」と何度も思いましたし、推薦で合格した友人が羨ましかったです。

それでも、第1志望の大学でキャンパスライフを送る自分の姿を想像し、諦めることは考えませんでした。

（最後に）

私が皆さんにいちばん伝えたいことは、模試の結果や一度の失敗だけで、自分の可能性を決めつけなくてほしいということです。受験は最後まで何が起こるか分かりません。

最後まで自分を信じて努力を続ければ、結果は大きく変わることもあります。これから大学受

験を迎える皆さんが、自分を信じて最後までやり抜き、合格を勝ち取ることを心から願っています。

ここまで支えてくださった作新学院の先生方、本当にありがとうございました。

受験体験記

静岡大学（教育学部数学専修） Nくん

英進にギリギリ滑り込み、選抜に上がって国立に受かった経緯をお伝えします。

「1年」 定期テストに力を入れるといいです。私は今後重要になりそうな単元や解法とかは定期テストで完璧にしていました。特に理科おすすめです。1年生は基本的数学と英語中心になり理科を自ら勉強しないと思います。この定期テストで理科を応用までやるとくと2・3年になった時の負担が減るので、この期間だけでも理科を極めとくのをおすすめします。全ての教科をまんべんなくやるというより本当に大切なところを中心に勉強すると模試の成績が伸びます。

「2年」 数強と呼ばれるまで勉強の7、8割数学に費やしてください。夏休み終わるまでにベクトルまで終わらせておくといいです。私は秋になるまで数学しかやっていませんでした。数学は回答暗記するイメージなので量をこなしてください。秋になったら物理始めて、波に乗ってきたら冬から化学の理論を始めてください。化学の無機有機は3週間あれば十分なので慌てなくても大丈夫です。あと参考書試すなら今がチャンスです。3年生になると焦って色々な参考書に手を出す傾向があり危険なので今のうちに気になるのがあったら試してみてください。

「3年」 夏休み終わるまでは記述の勉強を続けて下さい。マーク模試の点数が上がらずすぐにマークの対策をすると中途半端に記述力が下がり、志望校を決定するときに参考にする記述模試の結果が悪くなるので粘って勉強してください。

共通テスト対策は学校でも行われるし、自身でも対策するので飽きるまでやります。その中で割と重要なのが 間違えたところの見直しです。対策問題をやるだけで終わってしまケースが多いです。そこでいったん立ち止まって、ワークに戻ったり教科書を見て復習したりすることが大切です。苦手な単元が見つかる良い機会なので苦手をつぶしてってください。

また共通テストまで逆算してできることできないことの見極めをして捨てる単元は捨ててください。この時期になると学歴を語るユーチューブで参考書ルートが紹介されますがあれを全部やるのは不可能です。変に手を付けないことをおすすめします。

夏休みの始めはいいスタートをきれますがそのうちダラケル時間が出てきます。メリハリをつけるために私がやっていたのは半日だけ思いっきり遊ぶ日を作ったことです。遊んだ夜に残酷感が生まれ焦りを生じるようになり逆に勉強に集中することができました。受験はメンタル勝負です。自分に負けないように頑張ってください。

各教科で成功した勉強法を紹介します。

「数学」記述・・・青チャート→大学への数学1対1（1対1やると青チャートをやった意味

がわかり理解につながります)

「数学」共テ・・・Z 会予想問題（本番難化した時のギャップが小さくなります）

「国語」共テ・・・色んな年代の予想問題、キメル現代文、漢文必携、漢文早覚え、古典単語（昔の予想問題が 200、300 円で販売しているのでそれを夏休みから毎日 1 題やってください。記述偏差値 50 超えたことありませんでしたが本番これで 7 割取れました。）

「英語」記述・・・長文ポラリス 1～2、やっておきたい英語長文 300～700、速読英熟語

「英語」共テ・・・予想問題集

「物理」記述・・・リードアルファ、良問の風

「化学」記述・共テ・・・セミナー、教科書（2 次試験対策で Do シリーズ使うのはいいと思いますが共通テストは教科書使ってセミナーを繰り返しやってください）

「地理」共テ・・・地理総合、地理探求の点数が面白いほどとれる本、資料集、白地図、秋場先生の補講（夏休みから予想問題と並行して進めてください。そして白地図に書き込んでください。最後に秋場先生の補講聞けば最高です）

「最後に」大学は自由で新しい出会いにあふれていて楽しいですが、高校で過ごす時間には、それとはまた違うかけがえのない価値があります。勉強も大切ですが、友達と過ごす日常や行事の一つひとつを大切に、今しかない高校生活を思いっきり楽しんでください。

文武両道の 3 年間

宇都宮大学（共同教育学部保健体育分野） S さん

【はじめに】

受験体験記を書けることを大変嬉しく思います。部活動と両立して頑張る後輩たちをはじめ多くの後輩たちの参考になれば幸いです。

【部活動について】

私はバスケットボール部に所属し、日々全国大会出場に向けて活動してきました。朝練習（朝学習）や放課後の練習で毎日忙しく、周りの人より勉強時間は少なかったと思います。それでも勉強と部活それぞれで目標を達成させたかったので、妥協することなく日々努力を重ねてきました。

【1、2 年生】

毎日部活による疲労で授業に集中出来ない日が多かったです。特に 1、2 年生の時は授業を乗り越える、ただ受けるという感じで 1 日 1 日が過ぎていました。授業の中では、先生が何度も大切なことをおっしゃってくださり、分からないことに対する解決法を探るヒントが沢山あります。そのことにもっと早く気づき、毎回集中して臨めば後の負担も軽くなったのではないかなと思います。授業以外では、電車や車など通学・帰宅時間や授業間の休み時間、遠征の移動時間などのす

きま時間を最大限に活用して勉強してきました。早く練習が終わった日には必ず 20 時まで学校に残って勉強したり、土日は、午前練の日は午後学校に残って勉強をしたりなど、周りとは差がつかないように必死に勉強も頑張りました。

【3年生】

すきま時間の使い方も上手になり、授業に集中して臨む時間も増えました。部活動は6月の後半に引退をし、ここから完全勉強に切り替えていきました。補講には必ず参加し、放課後も 20 時まで学校に残って基礎基本から見直しました。教育会館に行って 22 時まで勉強してから帰ることもありました。夏休みは教科書の問題を中心に取り組み、苦手な英語や古文、数学なども重点的に見直しました。そのため、点数がみるみる伸びていきました。

しかし、模試の判定は毎回 D 判定か E 判定。もう今から国公立大学を目指すのは難しいのかなと毎回自信をなくしていました。でも諦めませんでした。模試が終わったら 1 日、2 日にかけて丁寧に解き直しをし、出来なかったところはもう一度基礎から見直す、その繰り返しは最後までやり続けました。そして、授業で共通テストの演習が始まった頃には授業で解いた問題を放課後解き直すということも続けました。その積み重ねが確実な点数アップへ繋がったと思います。

【学校型推薦について】

私は宇都宮大学の学校型推薦を受験しました。学力が全然足りなかったため、推薦にかけるか一般にかけるかとても迷いました。最終的に推薦にかけて落ちましたが、逆に勉強のスイッチが入る良い機会になりました。また、私は本番で緊張に加え面接の独特な形式に戸惑い、うまくいきませんでした。この失敗経験があったからこそ二次試験に活きたと感じています。面接の形式が分かっていたし、2 度目だったため程よい緊張感で臨むことが出来ました。現代は、学力より人物像やリーダー性を重視する大学も多いです。そのため評定が足りていて、その大学を強く志望しているのであれば出願してみることをお勧めします。

【共通テストについて】

私の学部分野は、共通テストは 800 点分の配点でした。数 II は利用しなかったため、数 II の勉強は授業で済ませて定期テストである程度点を取れるようにしていました。地歴・公民では、第 1 解答科目が採用される方式でした。私自身、第 1 解答科目というものをよく分かっておらず、共通テストの出願をする際に、模試でいつも 1 時間目に日本史をやっているからという理由で適当に点数の取れない日本史を選択してしまいました。本番も日本史より政治・経済の方が 17 点高かったのにも関わらず、日本史が採用されることになってしまい、後に気づいて絶望しました。もう分かっているかもしれませんが、第 1 解答科目は自分が点の取れる教科を選択しましょう。私みたいに適当に選択してはいけません。共通テストは特徴的な形式なので、過去問や模試などで慣れておくことが大切だと思います。

私は難化、易化することについて特に気にしていませんでした。難しくなろうとそれは全国の受験生が同じ条件であるということを頭において難化にも対応してみせる！という気持ちで必死に勉強しました。おかげで本番も同じ気持ちで、緊張せず挑めました。

【二次試験について】

保健体育分野の二次試験は実技 400 点、面接 100 点の配点でした。実技では選択で、バスケットボール、走幅跳、マット運動を選択しました。ただ一つ言うなら、練習に早く取りかかった方

が嬉しいです。私は2月に入ってからマット運動や走幅跳を始めたのですが、それじゃ遅いということ強く実感しました。一緒に練習をした子の中には、12月からマットの練習をしている子もいました。とくに苦手な競技に対しては先生と交渉し、はやい時期からコツコツ練習をしていくと良いと思います。

【最後に】

三年間の中で折れそうになったときも多くありましたが、沢山の先生方やチームメイト、友達、両親など多くの方々に支えられ、ここまでやってこられました。絶対に恩返しをしたいという気持ちが強く、その思いが受験での原動力となったと思います。今受験生として目標に向かって勉強ができていることは誰かの支えや応援、声掛けがあってこそのことです。そのことに感謝の気持ちを持ち、日々学習に臨むことが私は大切だと考えています。文武両道を成し遂げることは簡単ではありません。しかし強い意志や思いがあれば必ず成し遂げられます。苦しい時間もつらい思いも受験には付き物ですが、その時にいかに折れず粘り強く頑張れるかが合格への鍵になると思います。花が咲くまでは大変で苦しく長い日々となると思いますが、努力をすれば必ず花は開きます。自分を信じて、最後まで諦めず頑張ってください。

最後まで読んでくださった方々、ありがとうございました。皆さんの志望校への合格を心よりお祈り申し上げます。

そして、3年間支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。結果で恩返しが出来て本当に良かったです。

受験体験記

福島大学（人間発達文化学類 教育実践コース） Gくん

はじめに、受験体験を書かせてもらえて嬉しく思います。さらに私の体験を伝えることで、後輩たちの役に立てれば幸いです。

私が作新学院で過ごした3年間は、「先生方に感謝する3年間」でした。入学当初、私は高校受験を失敗してしまい落ち込んでいました。しかし1年時の担任の先生がくれた「どこの高校に行くかより、その高校でどう過ごすのが大事だ」という言葉にとっても救われました。その言葉を聞き、勉強を始めようと思ったものの、最初は何から始めればいいのか分かりませんでした。内心「大学受験までまだ2年もあるし、何とかなるだろう」と思っていて結局やりませんでした。

しかし高校の3年間はあっという間です。明確な勉強法が見出せず気付けば後1年になっていました。

後輩の皆さんには、余裕をもって学習に取り組んでももらいたいです。

まず、一年生の内に数ⅠAを一通り模試の問題まで出来るようにしておくことと、英単語をひたすら覚えましょう。作新学院では『ターゲット1900』が配られると思います。1年生の内に全部覚えきり、外国人になりましょう。そうすれば、2・3年生になった時かなりのアドバンテー

ジになります。さらに、『青チャート』も配られると思います。数ⅠAはそれを使っていました。1年生の内は、出来ることが少ないです。ですがそれはチャンスです。1年間でひとつのことに使える時間が多いです。極めましょう。古文単語も出来たら最高です。皆さんは是非最高になってください。

2年生になったら、文系と理系に別れます。私は文系だったので、文系教科のアドバイスしか出来ません。「文系は理系より楽だ」と思っているなら勘違いです。文系科目はほぼ暗記です。しかし覚える量がとても多いです。特に日本史では、似たような名前のものが多く、更には、それが何時代の物なのかまで正確に覚えなくては正解にたどり着けないので苦戦しました。もちろん世界史を選択した場合でも、政治経済でも同様です。私は学校で配られたワークをやりまくりました。覚えづらい所や苦手なところは、もう何周したかわかりません。オススメの勉強法は、ノートに自分で表を作ることです。時代、人物を順番に整理し、その人が何をしたのか全て書き出していました。表を覚え、ワークの演習問題を繰り返し覚える。知らないことは書き足すのループでした。

3年生になったら1・2年生の頃にやったことを何度も復習する仕上げの段階に入れたら完璧です。皆さんは是非完璧になってください。

私は勉強を本格的に始めるのがとても遅かったので後悔していますし、焦りもありました。ですが、作新学院には常に寄り添ってくれる先生たちがたくさんいます。分からない所はいつでも教えてくれますし、助けてもらってばかりでした。学習面以外でも色んな先生に支えられていました。学校がとても楽しくリラックスできる場であった為、学習のやる気も保てていました。私は特に大好きな先生がいて、模試だと点数が全く取れていなかったのに、共通テスト本番でその教科を筆頭に合計得点が約100点上がりました。本当に「先生方に感謝する3年間」でした。

私は高校が作新学院でなかったら、絶対に行きたい大学に行けていなかったです。

最後に、3年生の時にお世話になった2人の先生には感謝してもしきれません。ありがとうございました。皆さんにも必ず自分のことを気にかけてくれる先生はいます。その先生を大切に、感謝し、頼りましょう。そして、第一志望の大学に合格することがその先生方への最高の恩返しになると思います。勉強は辛いです。はっきり言うと私も大嫌いです。ですが、ここで逃げてしまうと、高校が終わった後が辛いと思います。負けないで、もう少し、最後まで走り抜けてください。

E判定でも自分を貫くこと

公立諏訪東京理科大学（工学部情報応用工学科） Yさん

私は、埼玉大学工学部情報工学科の学校型推薦を受験し不合格となり、前期で公立諏訪理科大学を受験して合格しました。この経験を経て推薦と一般の受験対策の両立を考えている方や大学受験に対してまだ具体的なイメージを持ってない方の参考になれば嬉しいです。

【勉強について】

高1の4月の段階で志望学科が固まっていたので、条件に合う大学を片っ端から調べ、どこの大学を目指すにしてもほぼ必ず二次試験で数学が課されているということが分かりました。しかし、数学の授業についていけない落ちこぼれだったため、自分でどうにかするしかありませんでした。いくつかの勉強法を試し、スタサプ→白チャート→4STEP→青チャートのサイクルが自分にはあっていることが分かりました。その結果、高1の6月から1月の模試で偏差値を13伸ばすことに成功しました。ただ、このサイクルはとても時間がかかり効率的とは言えないため、数学が本当に必要な方におすすめします。手っ取り早く数学をどうにかしたい方は白チャートをまずやってみて欲しいです。また、英語はターゲット1900を登下校の際に欠かさずやることやとにかく長文を沢山読んで英文に慣れることが共テの英語を突破するカギだと思います。

【推薦受験について】

始めに記した通り私は埼玉大学を第一志望としていました。高1の4月から受験を考えていたので、推薦や自分自身の興味を深めるために関東の地方国公立が開催しているプログラムや宇大のip-Uなどに積極的に参加しました。また私が受けた推薦は面接と数学、英語、情報の共通テストの合計点で合否が決まるため一般の受験対策と並行して対策を行うことができる点と志望校に合格するための機会を増やすことが出来るという点で推薦の受験を決意しました。

【共通テストについて】

共テ本番では受験教室が女子しかおらず、友達も多くリラックスした状態で受験することができました。しかし、2日間の戦いの後自己採点をして見ると共テ1週間前に行われたプレテストからも約百点下がり、過去最低点をたたき出しました。この日から受験が終わる日までは現実を受け入れられず、地獄のような日々でした。共テ後は学校にも行くことが出来ず、逆転合格するために二次試験に向けての勉強をしなくてはならないという気持ちとなぜこんなに低い点数を取ってしまったのだろう、もう受験を辞めてしまいたいという気持ちでぐちゃぐちゃになり2、3週間は何も手につきませんでした。

【出願から二次試験について】

推薦に落ちた場合安全策をとって共テ前から一般前期で受験しようとしていたのは共テ模試でずっとA判定だった諏訪理科大でした。しかし、共テの自己採の点数と秋の記述模試の成績で判定が出されるリサーチの結果はE判定でした。推薦もダメ、当初の予定の諏訪理科大もE判定となり親と担任の先生からはレベルを下げて判定がいい別の大学のへの出願を進められました。また、過去のデータから見ても自分の判定から合格した人はおらず受験は現実的じゃないという話になりました。しかし私は第一志望が無理だった以上、どうしても第二志望であった諏訪理科大を諦めたくありませんでした。この判定から受かった人がいないなら自分がパイオニアになってやるという気持ちでなんとか親を説得し、出願締め切り日のギリギリで諏訪理科大に出願しました。

そこからは、毎日自分のメンタルと戦いながらE判定からの逆転合格を目指してもがいていました。諏訪理科大は二次が自分の苦手な数学一本勝負だったため、過去問分析を徹底的に行い一か八かが出る単元を予想し、その単元を重点的に勉強しました。また、試験範囲である数IIIを勝手にリタイヤして授業も聞かず、勉強もしていないという絶望的な状況だったため、毎日狂っ

たように数 III の白チャートだけをやり続け、2週間ほどで終わらせました。二次試験本番では過去問分析を徹底的に行ったおかげで予想していた単元を全部的中させることができました。しかし、シンプルに問題が解けず不合格だと思っていました。

ところが、おそらく共テ後に詰め込んだ数 III の大問を完答することが出来たおかげで E 判定からの逆転合格、そしてパイオニアになることに成功しました。

【最後に】

受験は運ゲーで最後は、問題との相性です。多く点数を取るために出来るのは自分が解ける問題が出るように祈ることと解ける問題を 1 問でも増やすための勉強です。また、第一志望に合格できる人はほんの僅かで、受験を甘く見ていたら絶対に途中で挫けてしまうと思います。受験では最後まで諦めず、自分を信じて意志を貫き通すことが大切だと強く感じました。皆様の健闘を祈っております！！

落ちてても死なないけど受かりたい人へ

明治大学（国際日本学部） I さん

【はじめに】

「本気とはあとで後悔しないこと」

この言葉を聞いて、「後悔しないように死力を尽くせ」と言われているような気がして憂鬱になってしまう人もいるかもしれませんが、私は違うとらえ方をしました。「後悔さえしなければ、受験は成功である」と。

正直、後悔とは「後で悔いること」なので、絶対に後悔しない方法、やり方なんてないと思います。ただ、自分が信じた、自分の経験から編み出した方法で受験と向き合うことで、私は前向きな気持ちで頑張ることができたし、結果に後悔ありませんでした。本気とは、死ぬ気で頑張ることではなく、自分のやり方で誠実に受験と向き合うことだと思います。

受験とは、よりよい人生を生きるための一つの手段です。落ちてても死なないし、逆に言うと落ちてても死ねません。なので、「これで落ちたら死にたくなる」くらい頑張るといえるのはお勧めしません。その日その日の自分の人生を大切にしながら受験を乗り越えましょう。私が実際にやっていたこと・考えていたことを、アドバイス形式でお伝えします。

【1年生へ】

1 年生は受験のことを具体的に考える必要はないです。私立、国公立の違いを分かっているだけで十分だと思います（自分がどちらに向いているかを考えるにはまだ早い）

- ・某学歴 TV はエンタメです。あれを本気で信じているようではだめです。
- ・授業だけは全力で臨むこと。国数英だけでいい。一言一句聞き逃さない、授業中に全部理解するくらいの気持ちで受ける。それだけで受験の基礎につながります。
- ・毎回の定期テスト対策期間を利用してトライアンドエラーを繰り返し、自分の学習スタイルを

確立する。

・ガリ勉が意味ない人もいる。自分に合った勉強法を1年のうちに知ることが何よりも重要！受験期にはそんなことやってられないし、自分に合った方法を知らないまま適当にやり続けていると本番の結果で思い知ることになってしまいます。

【2年生へ】

2年生のうちに英検準1級を取ろう。(特に文系)

長期休みを利用して1、2か月集中で、一発でとってしまいましょう。長引くとほかの科目に響くので、短期決戦がカギ。腹くくって英語に集中してみよう。3年次で受験勉強に集中できるとかなり有利。

＜英検準1級を私が一発で取得した方法（参考までに）＞

- ・従来型で受験 一次二次それぞれに集中できるから。
- ・毎日2～3本英作文書く（先生に朝提出し、添削していただいたもののリライトと初見を書いて次回提出のサイクルを毎日）英作文の比重が重いので、最優先で得点源にする。
- ・語彙はターゲット最後までと準一用単語帳の最頻出事項だけマスター、移動やごはんの時にリスニング音源か英語ニュース聞く。
- ・二次はできるだけたくさん先生に対策してもらおう 頻出テーマには自分の意見を持っておこう。

結果、英作文ほぼ9割・リーディング6割・リスニング4割で合格しました。

1年かけて、来年から受験生になることを受け入れよう。急には頑張れないので、少しずつ始めよう。目標がない人こそ、とりあえずやるべき。でも目標があったほうが、勉強が苦じゃないので、見つけましょう。

【3年生へ】

受験生ライフ、意外と悪くないから頑張ろう。

一つの目標に向けて頑張れる環境はとてありがたいものです。先生や家族など周りの大人を頼りながら頑張っていきましょう。感謝の気持ちだけは常に忘れないように！

・地力を底上げする勉強をしよう。(知識が抜け落ちにくいので、結果がぶれにくいから。最終的に出願先を決定するときの予測が正確になるのは大きな武器)。詰め込み勉強は身になっておらず、ちょっとした緊張で結果がぶれると思うからおすすめしない。

前者のやり方で行ける大学が自分にとって一番いい環境のはず。

今は学歴とか名前が気になると思うけど、4年間通う大学には勉強以外のことで大事な学びがたくさんある。

それを得るためには、自分に合った環境の学校に入ることが大事。

・休むことはプラスになる(頑張った分休憩しないと壊れる、スポーツと同じ)、それを理解して、勇気を出して休むときはしっかり休みましょう。

※「今休んだら後悔する」と思ったらそれは必要な休憩ではなく怠惰なのでもうちょい頑張ってみよう。

・受験は自分との闘い。受験はボクシングではなく弓道、剣道ではなく陸上。

他人の成績をコントロールすることはできないが、過去の自分さえ超えれば確実に合格に近づ

ける。自分で決めた受験との向き合い方を信じよう！

- ・受験に絶対はないからこそ、向き合い方は自分で考える。自分で決めたことなら後悔しない。
- ・落ち込むときは下がり切って、もう上がる以外にないところまで早いところ落ち込みましょう。

結果的に復活が速いです。

- ・何か一つだけ、きつくなった時の逃げ場を残しておく。時間のかからない趣味が良いと思います。

【最後に】

ここまで読んでくださってありがとうございます。皆さんが、少しでも明るい気持ちで日々を過ごせることを願っています。受験、頑張ってください！